

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1690400070		
法人名	社会福祉法人新川老人福祉会		
事業所名	グループホームちゅうりっぷ		
所在地	富山県魚津市新金屋2丁目6-2		
自己評価作成日	令和3年1月21日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://nikawa-fukushi.net/">https://nikawa-fukushi.net/</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人富山県社会福祉協議会		
所在地	富山県富山市安住町5番21号		
訪問調査日	令和3年2月19日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個々の意思を尊重したケアを行ない少しでも自分らしく過ごすことが出来るように支援しています。職員は笑顔忘れず入所者に寄り添います。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・法人のグループホーム管理者と話し合いの機会を設けるなど、利用者が笑顔で暮らしやすいケアを目指し取り組んでいる。
- ・ショートステイ対応の居室をグループホームとして活用したことで、居室ごとに備え付けのクローゼットや洗面台、トイレが設置され、空間も広々としている。
- ・コロナ禍で外出が厳しい状況ではあるが、4F屋上・広々とした駐車スペース・居室のベランダに出て景色を楽しんだり風に当たったりするなど、利用者は身近な外出を楽しんでいる。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念は目の付く場所に貼って日々の業務に取り組んでいる。	理念は事業所エレベーター前に掲示、フェースシートの表紙に貼るなどしている。開所当時は理念がなく管理者が作成し、理解は個々に任されている。実際に具体的に掘り下げての話し合いや意見の統一は図られていない。	機会を設け話し合いを行うことなどを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開所当初からコロナ感染予防の為、面会制限やボランティアの受け入れなどが出来ない状況である。運営推進会議では地域の方との触れ合いの場を設けていきたいと考えている旨、話はしている。	地域の自治会や町内会には所属していない。運営推進会議参加メンバーより地域情報を得ている。近隣のドラッグストアや菓子店へ買物に出かけている。1・2Fのアパートに訪問していたボランティアさんの「歌声集会」を3Fの事業所で実施し、アパート利用者と交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度開所した施設であり、コロナ感染予防の為、施設への出入りを制限している。なかなか地域の方との交流も出来ない状況である。入所申し込み時に相談があればわかる範囲でお答えしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、災害時の避難誘導の手伝いを行なっているのかどうかとの意見が出た。地域の方の避難場所として提供は今のところ出来ないが、隣接の施設入所者の誘導等は手伝って頂けるのは有難いと話している。	2ヶ月に一度会議を実施している。コロナ禍であり、対面での開催が2回の開催になったが、開催不可の場合は資料を郵送するなどしている。地域の参加メンバーからも積極的な意見をいただいている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市役所職員に出席していただき現状把握をいただいている。	市担当者に適宜相談している。法人窓口に研修実施や連絡事項などメールで案内が届いている。コロナ禍で介護相談員の訪問はない。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3階に事業所があり、階段・エレベーターには暗証番号等、入力したりしないと開かないようになっている。また、部屋のペランダに出る窓は二重鍵になっているが、今は使っていない。これは安全面を考慮したものである。	転倒防止のためセンサーマットは2名が利用している。身体拘束に関するマニュアルはあるが研修は行っていない。	既存のセルフチェックシートを活用したり、話し合いを行うなど振り返りの機会を設けることを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今のところ時間を取っての虐待についての研修は行っていないが、言葉使いや態度など職員は常に気を付けて対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、申込者に成年後見人がついている方は、いるが、入所中の方には該当する方はいない。まだ、勉強不足である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	出来る限り分かりやすい言葉で説明し、分らないことはないか確認している。また、後日、分からないことがあれば、いつでも連絡してほしい旨、話している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約書には、苦情等の連絡先を記載している。また、家族の面会時や連絡時に家族から何か要望などは無いか確認し、要望に対してはその都度対応している。入所者との日々の関わりの中での要望は、可能なものは対応している。	家族より積極的な意見が出にくいため、来訪時の声がけや、遠方者には電話連絡にて利用者の様子を伝えるなど、話しやすい雰囲気づくりに留意している。利用者の水分不足について家族から経緯を聞き補給に対応できた。ちゅうりっぷだよりは2ヶ月に1回郵送している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常日頃から意見を聞き提案があれば実際に行なうなど反映させている。	カンファレンスやミーティングで話し合いを行っている。職員からの意見でホットウォーマー(食事前の利用者におしぼり提供のため)やソファを購入した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課で対応している。また、日頃から感謝の言葉をかけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外の研修にも参加出来るようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ感染予防などの関係で、なかなか交流の場が設けられていないのが現状である。機会があれば交流の場を設けて行きたいと思っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所当初は、できるだけ関わりを持ち不安にならないようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込みの時点で、どんなことに困っているかを確認している。また、要望についても確認している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームなので、生活全般の支援は行っているが、それ以外に支援が必要な場合、その都度対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事仕事などの出来ることを一緒に行なっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今年は新型コロナウイルス感染予防の為、面会が制限されているが、近況報告を書面や電話等で行ない、状況把握を家族にしてもらっている。また、電話で話をしたりして状況を見て、面会も行なっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会制限があった中で十分には支援出来ないが、電話で話すなどの支援は行っている。	コロナ禍のため外出は厳しい状況である。希望者があれば理美容店に出張を依頼し整髪を行っている。家族等の訪問には感染予防を徹底して対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	声を掛けたり、みんなで楽しめる事を余暇活動で行なうことで孤立しないよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今年度開所した施設である為、まだ例がないが、いずれこのようなケースがあれば対応していきたいと思っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から好みや要望になるような事やこれまでの生活歴など会話の中で汲み取っている。	入所前の生活状況や本人の思いについて、本人家族・ケアマネジャーなどから情報を得ているので、毎日の暮らしの中で本人の意向が引き出せるように、話しかけるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の情報を、ケアマネジャーや利用していたサービス事業者に聞くなどして把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員も夜勤に入っているので、入所者の一日を通しての様子は理解できている。また、申し送りなどは職員間で情報共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	十分に反映されたケアプランになっているか自信はないが、出来るだけ意見を反映したものをと思いながら作成している。	職員が利用者を個別受け持ち制としている。担当者としてその人をより深く知ることによって個別に関係者から相談される点が良い。気づきや情報は計画作成者に報告し計画に生かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録として十分に出来ているかは、定かではないが、気づいたことや工夫については、その都度職員間で話し、どうしていくか考えている。連絡ノートに記入していることもある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	例外的ではあるが、家族が県外の為、利用者の体調が優れない時の受診介助を行なった(点滴が必要であったが看護師がいなかった為、受診しなければならなかった)。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ感染予防の為、外出する機会やボランティアの受け入れなどが出来なかったので、地域資源の活用が出来ていないと思う。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要に応じて主治医に状況報告を行ない、受診がスムーズにいくようにしている。また、主治医からの指示を家族に連絡するなど連携している。	利用者はそれぞれかかりつけ医を持っている。必要に応じて往診があり、薬が処方されたりする。慢性疾患で長期間処方の人や悪性疾患の人もある。病院受診は基本的には家族付き添いである。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の配属が無いため、必要に応じて主治医へ連絡している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供を行ない、退院時に向けては本人の様子を実態調査や地域連携室などに連絡して調整している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	要介護3になった時点で特養に申し込みをしていただいている(入所時に説明している)。また、看取りを行っていないことも説明しており、本人の状態に合わせてどうしていくかを相談しながら進めている。	入所時に重度化した場合の対応を説明し、了解を得ている。開設してから日も浅く看取りの対象者はいないが、看取りの体制はできていない。	介護度が高くなれば特養へ入所申し込みをする方針であるが、今後は住み慣れた環境で終末期を過ごしたいという希望があれば、受け入れすることも視野に入れて、職員と話し合っていくことを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応はどのように連絡していくか、何をするかは口頭での説明をしているが実践に向けた研修は行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行ないながらどう対応するか確認している。運営推進会議で避難誘導の協力について話し合いをしている。	3階に居住しているので水害には安全性が高いが、火災発生時は、ベランダから螺旋階段利用となるので、地域の協力や法人の支援が必要となる。現在は1階、2階、3階合同で避難訓練を2回行ったが3階待機で終わっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	方言で話すことは多いが、中でも丁寧 に話しかけるように心掛けている。	日常会話は姓で〇〇さんと呼んでいる。例外的 にご夫婦の場合は名前で〇〇さんと呼ん でいる。利用者それぞれの希望に沿った空間 と時間を過ごせるように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている	余暇活動など、何かしたいことはないかを確 認したり、活動内容の中から選んでもらったり など出来るだけ自分で選べるように声掛け は行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのよう に過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべくそのように対応するようにしている が出来ていないこともある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	訪問カット時、本人の希望の髪形になるよう にしている。また、洋服を自分で選ぶこともし ている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み や力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備 や食事、片付けをしている	月2回の特別食を提供している。おやつ作り も行なっている。お盆拭きやテーブル拭きなど 食事に関わることはしているが、入所者の 身体状況により十分な取り組みができてい ない部分もある。	食事は外部業者を利用しているが、ご飯とおつゆ は台所で作り、温かいものが提供されている。盛り 付けも職員が丁寧に行い、その人に合わせた食 事形態で提供されている。おしぼりは保温され、温 かい物が配られている。おしぼりたたみやお盆ふ きなど利用者が手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応 じた支援をしている	食事量の少ない方には、主治医に相談し栄養 補助食や、水分を取らない方には好みの 飲み物を提供するようにしている。また、咀 嚼や嚥下機能に合わせた食事形態で提供し ている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケア をしている	毎食後、口腔ケアの声掛けと介助を行なっ ている。必要に応じて歯科受診をしてもらっ ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自分で排泄用品を取り換えられるように工夫したり、声掛け誘導など行なったりしている。	各室にトイレと洗面台があり、他の人に気遣うことなく、排せつできる。反面、観察がおろそかにならないように職員は気を付けている。排泄チェック表は個人別で1ヶ月記録表としている。パンツ利用を多くするような支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を摂ってもらうように勧めたり、朝食時には牛乳やヤクルトなど乳製品をとってもらったりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々に合わせた入浴時間や曜日に対応出来ていないが、十分にゆっくり入浴できるように1対1の対応としている。柚子湯や入浴剤などで少しでもリラックス出来るようにしている。	浴室は広く、特殊浴槽も備えている。現在は個室2個を使用し、一人ずつゆっくり入浴している。3階なので窓からの眺めも美しく楽しめる。	個々の希望に沿った入浴時間を楽しめるように、入浴剤を活用するなど期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	様子を見て部屋で休むよう声をかけたり、部屋の空調を調節したり、パジャマに着替える・寝具を整えるなどしてゆっくり休めるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効能や副作用の記載した薬剤情報を確認している。必要に応じて主治医に情報提供している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族に嗜好品を用意してもらったり、趣味嗜好に沿ったものを準備したりするように心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や日光浴は行ったが、今年は外出を控えていたのではショッピングやドライブには行けなかった。	駐車場や敷地が広いことや近くに公園があり、徒歩で行ける人もいる。コロナ禍の1年であったが、日光浴と散歩は天候が良ければ実施できた。ベランダから立山の景色を楽しむこともできた。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している方はほとんどいないが、所持している方は、自販機でジュースを買ったり、受診時に買い物をしたりしてくる方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があれば行なっている。また、家族から電話がかかってくることもあるので話をしてもらうことはある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	至る場所にソファやテーブルがあり、自由にくつろげるようになっている。天井にはガラスがはめ込まれており、自然の明かりが差し込むようになっている。	食堂は天井の半分くらいが すりガラス張りで自然採光が温かく明るい。夏場は暑すぎて冷房が効きにくい場合があり、遮光が必要という。ソファの利用も自由にでき、装飾も作品の額などすっきりと飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	至る所にソファや椅子、テーブルがあり自由に使用してもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に、馴染みの物を持参されるよう話している。	各居室にトイレと洗面台があり利便性が高い。床はフローリングでベッド、冷暖房、押し入れがある。桐ダンス、多くの写真の持ち込みや、テレビ、冷蔵庫を備えている人もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	表札や場所を明記したり、目印になるものを飾ったりして分かりやすいようにしている。		

(別紙4(2))

事業所名 グループホームちゅうりっぷ

## 目標達成計画

作成日: 令和 3年 6月 9日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	理念はよく見るファイルの表紙や事務所に掲示してあるが、理解・解釈は個人に任せてある為、統一感が図られていない。	職員が理念を理解し、理念に沿った対応をしていく。	理念について話し合いの場を設ける。その際、現状の理念に捕らわれず、新しい理念を構築することも念頭に置いておく。	12ヶ月
2	45	入浴剤や1対1の対応を行ない、少しでもリラックスした状態で入浴を楽しんでもらいたいと思っ て行なっているが、時間帯については対応が出来ていない。週2回の入浴となっている。	お風呂の好きな方には週2回に拘らず、入浴環境を整える。	現在お風呂を週4回沸かしているの、その時にお風呂に入りたいかどうか確認し入りたい方にはバイタル測定し、異状がなければ入ってもらう。	2ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。